

SETAGAYA PUBLIC THEATRE

世田谷パブリックシアター

20周年を
経て

ま
た
一
歩
し

未
来
へ
。

シーズンラインアップ
2018^年
度

世田谷パブリックシアター
SETAGAYA PUBLIC THEATRE

チャレンジな作品が

並んだ開場20周年

永井 | 開場20周年の2017年度シーズンも、多彩な演目が繰り広げられ、20年の結実というのでしょうか、その成果をお客様に提示できました。萬斎さんの狂言のスタイルを加味した『子午線の祀り』をはじめ、国際交流発信の『パール・ギェント』、次世代の育成という意味で若手の小山ゆうなさん演出の『チック』、あと森新太郎さん演出の『管理人』は同時代性を意識した舞台で、いまの社会的な問題を喚起した作品が多かったと思います。これまで世田谷パブリックシアターが標榜してきたコンセプトをそそえることができたシーズンでしたね。

萬斎 | そうですね、いまちょっと稽古している、こまつ座との共同制作で栗山民也さん演出の『シャハイムーン』と、ワジディ・ムワド作、上村聡史さん演出のシリーズ作となる『岸 リトル』も含めて（*対談は1月下旬）、20年間積み上げてきたスタイルというものが確立されてきたし、その積み重ねと厚みを感じられる1年で、20年間の成果がいろいろな形で評価されたのはとてもよかったなと思っております。

永井 | 特に萬斎さんのカゴブが入った『子午線の祀り』はこれまで繰り返し上演されてきて、萬斎さんも出演したことのあある作品ですが、昨年、萬斎さんの新しい演出で再構築したということで、レパートリーの蓄積にもつながったと思います。

萬斎 | 過去の上演戯曲をあらためて上演するというのは、いままでの価値観を新たにすることです。先人が積み重ねてきたものをアップデートするというか、現代性を獲得するために、いったん価値観を壊すこと、そこから再構築する作業に取り組みましたね。

永井 | 同じことが、勅使川原三郎さんのダンス『ABSOLUTE ZERO 絶対零度2017』にも言えます。開場当初「演劇とダンスの劇場でありたい」とスタートしたわけですが、オープニング・シリーズとして創作したものを改作した『絶対零度』はダンス好きの方だけではなく、幅広く多くの方が

ご覧になり、嬉しかったですね。

萬斎 | 勅使川原さんはじめ、開場当初からの方も現役で活躍されていらっしゃるし、一方で新しい芽もあり、フィジカルティが強い作品、文学的で骨太の作品もあり、非常にバリエーションに富んでいます。私自身が「とんがった劇場」を標榜してきたつもりですが、まさしくとんがったラインアップになったなあと感じますし、刺激的な作品を、刺激的なアーティストによって取り上げてきた。それを続けてきたからこそ、単にとがっているだけではない奥深さも出て、そこがこの劇場のひとつのカラーだといっている。

分からなくても 感じることはできる 心を豊かにする 劇場での出会い

萬斎 | これからのことという、お客様にどう劇場に来ていただくか。どう新しく開拓し、劇場にわざわざ足を運んでいただけるかが、課題じゃないでしょうか。劇場は何をしに来るところなのか、改めて考えないといけない。

永井 | この劇場には「友の会」というのがあり、その中高年の男性会員の方で演目によっては2回3回と観る方がいるんですけど、それもあり難しい作品を。でも観ているうちに観る目が育ってきているんですね。観客育成って簡単じゃなくて、観ることによって育つのね。

萬斎 | かつては演劇鑑賞団体が観る習慣を組織でつくっていたのが主流だったのが、今は観るも観ないも個人次第という傾向が強まり、本当に自らが選択するというふうになってきていますよね。いまの永井さんの発言のように観る目も観る習慣をつけることにより養われ、芝居の見方とか、自分が芝居とどう向き合うかということがはっきりしますから、劇場にとにかく来ていただきたい。たとえば、舞台を観て分らないでもいい。分からないことが罪だ、みたいな発想がどうしてもあるけれど、分からないなりに感じるってこと、何だったんだろうと

考えること、そのうちに分かなければもう一回観てみようという作品とも出合えるかもしれません。

永井 | リピーター料金を設けなければいけませんね。

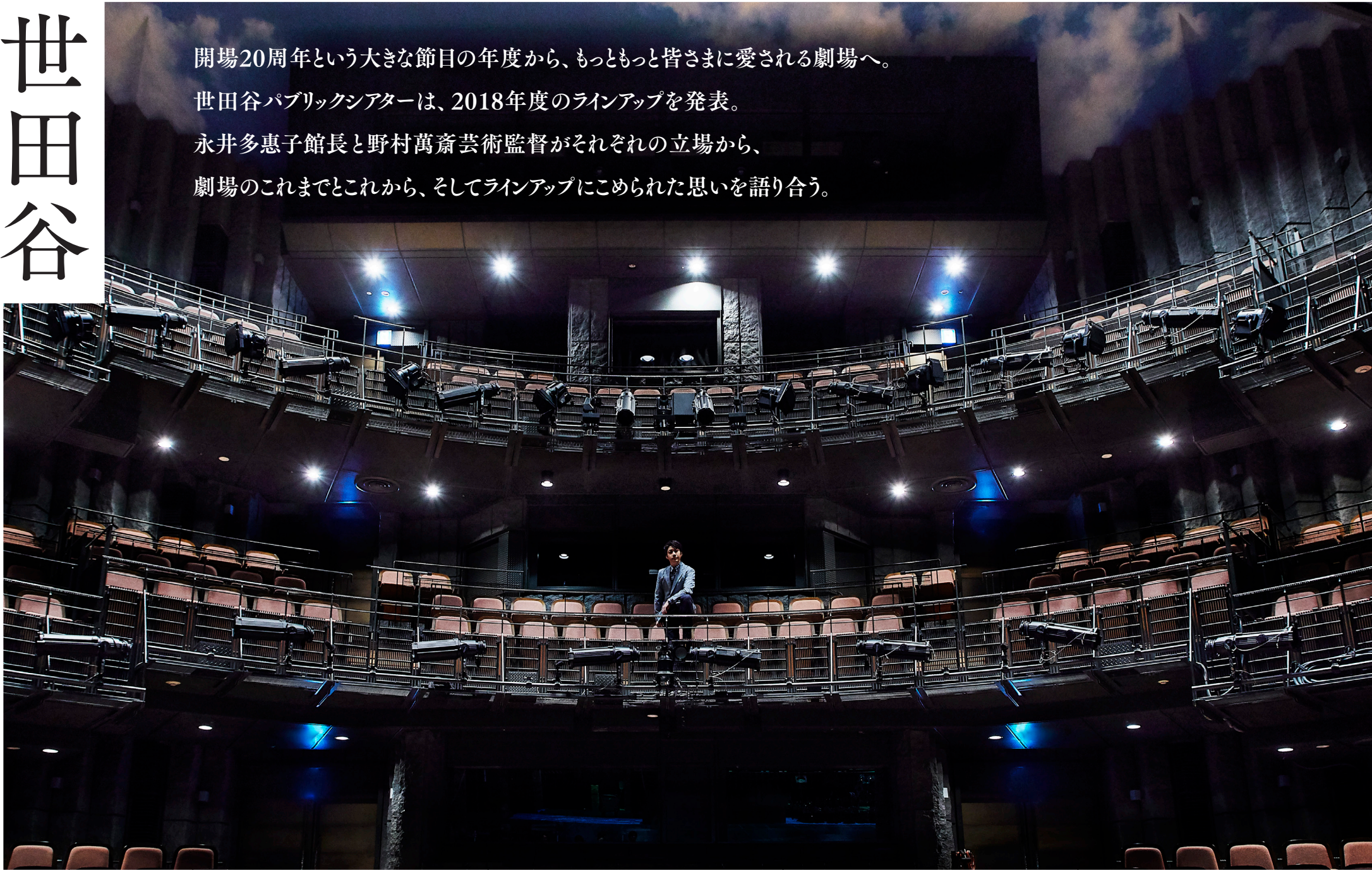
萬斎 | ツイッターでいまどきのつぶやきを見ていると、わけが分からないものを咀嚼しようという若い人もたくさんいるんですよ。そういう動きも、今後の企画の参考にしたいですよな。

永井 | 地域との共生では区民の方々に表現の場を提供したり、『三茶de大道芸』でいろんなパフォーマンスをお見せしたり、普及でいえば劇場を飛び出して高齢者施設で公演を行ったり（@ホーム公演）、中学校演劇部の区大会を技術的に支援するとか、アウトリーチの活動が定着し、地域からは圧倒的な支持をいただいていますね。『地域の物語』に代表されるワークショップも多彩です。

萬斎 | 私が25年前にイギリスに留学したとき、ワークショップというものに初めて出会い、やっぱり自己表現を学ぶということはとても重要なことだと思いました。自己をどう豊かに表現していくか、それがしきれないという部分、鬱積してしまうみたいなところが人にはままあるわけで、発散したいとか、おちゃらける技術でもいんだけど、何か豊かにしたりするきっかけをもらえる場ですよな。そして障害のある方もいろんな人が一緒になって、己を認識し、他者を意識しながら、表現する。社会はさまざまな人間の集合体なので、同じ人間だけが集まってやるのではなく、違う人間が集まってやるという意識。パラリンピックがこれだけ注目を浴びているときに、そういう障害の有無を超えた演劇というものも、もっともっとあってほしいですね。

世田谷パブリックシアターのこれまでとこれから、そして今。

館長 世田谷パブリックシアター
永井多恵子
芸術監督 世田谷パブリックシアター
野村萬斎



開場20周年という大きな節目の年度から、もっともっと皆さまに愛される劇場へ。

世田谷パブリックシアターは、2018年度のラインアップを発表。

永井多恵子館長と野村萬斎芸術監督がそれぞれの立場から、劇場のこれまでとこれから、そしてラインアップにこめられた思いを語り合う。

東京2020を見据えて 多様な作品が並ぶ

萬斎 | 2018年度以降も、引き続き3つの芸術監督方針、「地域性、同時代性、普遍性」「伝統演劇と現代演劇の融合」「レパートリーの創造」という根幹は変わらずに運営していきます。

永井 | 話を具体的なラインアップに移しますと、世田谷区の劇場としての「地域普及」事業として、世田谷区民が主役のおなじみ『フリーステージ2018』にはじまり、またKAAT神奈川芸術劇場との共同制作で白井晃さん演出『バリトーク』があります。

萬斎 | 首都圏の公共劇場と一緒に制作し、上演も両劇場で行う初めての試みですね。

永井 | 公共劇場同士助け合って、互いの特性を出し合ってつくろうという企画です。言葉だけでなく、フィジカルでも見える舞台。今日の演劇は世界的にもそういう傾向が多くなりつつありますね。

萬斎 | 狂言劇場は特別版として、取り上げるのは能『鷹姫』と狂言『椿山節考』です。前者は戦前のアイルランドの劇作家ウィリアム・B・イエイツが能の影響を受けて書いた戯曲「鷹の井戸」をモチーフにした能で、後者は父と共に58年ぶりに能楽堂で改訂再演したものを、初めて劇場でやることで次なる可能性も見出したいと思います。

永井 | 夏は『せたがやこどもプロジェクト2018』ですね。親子で劇場に来て楽しんでいただいて。

萬斎 | 『お話の森』に昨年初めて出演しましたが、子どもはおもしろい、おもしろくないに正直ですから、なかなか骨が折れました（笑）。今度は片桐仁さんが入ってくれますね。

永井 | おもしろいメンバーが揃いましたね。秋には上海戯劇学院の『鳳を おこした男―田漢伝』が日中平和友好条約40周年を記念し、国際交流事業ということで上演します。田漢という人は文化大革命で獄中で没した中国を代表する劇詩人ですが、演出は中国で現代演劇ならこの人という女性演出家・田沁鑫で、洗練された舞台です。お薦めの作品です。

萬斎 | 現代能楽集IX『竹取』、これまでのいろいろな劇作家・演出家の方へお願いしてきましたが、能狂言は本来フィジカルシアターのひとつだともいえますので、今回はマルチに活躍されている小野寺修二さんに委託して、選んでくださったのが「竹取物語」です。能楽的なものにどうインスパイアされながら構成、演出されるのか、楽しみです。

永井 | 10月、恒例の『三茶de大道芸』ですね。これに関連して現代のサーカス、サーカス・シルクールが日本・スウェーデン外交関係樹立150周年の年にやってきます。次の森新太郎さん演出の『The Silver Tassie 銀杯』はフットボール選手の話ですが、2020年の東京オリンピック・パリ

ンピックを意識した作品で、このアイルランド作家の戦前の戯曲を新しい形で見せる。音楽的な要素も強い芝居です。

萬斎 | 年が明けた2019年、栗山民也さんの演出作品が今年度も登場します。栗山さんは今日的な意味を反映して演出される、頼れる演出家です。

永井 | 続いて小川絵梨子さん演出の『熱帯樹』、世界的にもバリューのある三島由紀夫の作品で、ギリシャ悲劇的なドラマチックな要素があります。海外招聘のストッギャップ ダンスカンパニーは車椅子使用者やダウン症などのパフォーマーが活躍するダンスです。舞台芸術の新たな可能性を知っていただける公演です。そして最後、3月には『地域の物語』ですね。地域の方々が数か月のワークショップの成果を発表します。近年は「介助・介護」や男女の「生と性」など、アクトアルなテーマに踏み込んでいます。

アーティストがお気に入りの劇場は観客にとっても「いい劇場」

萬斎 | こうしてみると2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、世界に発信し、また新しい表現方法を皆さんに問う、公共劇場としての使命が随所に感じられるものになっているのではないのでしょうか。

私は東京2020の開閉会式総合プランニングチームの一人として任命されましたが、自分の古典芸能という伝統、かつ国を背負うという仰々しい言い方になりますけれど、そういう観点がどうしても必要だし、日本人のアイデンティティを発信するということをあらためてもう一度考えたい。日本を理解してもらうチャンスだと思いますし、全世界に訴えるのは、言葉よりやっぱりフィジカルティが大きくなってきます。かつ、そこから想像力、イメージーションを働かせるような仕掛けを考えていきたいと思っています。

ともあれ、世田谷パブリックシアター、シアタートラムにいらっしゃればライブパフォーマンスの醍醐味を味わっていただけます。ともに、客席と舞台が近い劇場ですからね。

永井 | そうですね。2階・3階席の端の

席も私は好きなんです。舞台との距離が近くて身体に伝わります。

萬斎 | お客様にはあまり知られていないことですが、多くのアーティストが使いたい！と言ってくださっている劇場です。それはなぜかという、アーティストがじかにお客様と近い距離でコミュニケーションできるというので、皆さん気に入ってくださいなわけです。「世田谷だからやりたい」のは「劇場」自体の魅力も大きいのだと思います。アーティストが喜ぶ劇場で、単刀直入でいえば「いい劇場」なんですよ。皆さん、ぜひ劇場でお会いしましょう。



永井 多恵子

ながい たえこ
NHKで経済番組のキャスター、女性問題・文化等の解説で活躍。1990年、当時の浦和放送局長時代にはスタジオを市民の地域活動に開放、NHKのスタジオ・パーク構想の先鞭をつける。以後、解説主幹を経て退職。97年の開場時から世田谷文化生活情報センター館長を務める。2005年にはNHK副会長に招聘され、一時せたがや文化財団を離れたが、09年に復職。フランス共和国政府芸術文化勲章「オフィシエ」叙勲、モンゴル公放送・特別賞を受賞。

野村 萬斎

のむら まんさい
狂言師。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督。『まちがいの狂言』など狂言の技法を駆使した舞台や、『国盗人』など古典芸能と現代劇の融合を図った舞台を次々と手がけるほか、「マクベス」では全国各地、海外公演も果たした。自らの構成・演出作「敦一・山月記・名人伝」では朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞を受賞。新演出を手がけた20周年記念公演『子午線の祀り』では読売演劇大賞 最優秀作品賞、毎日芸術賞 千田是也賞を受賞。

地域の人々をつなぐ公共劇場として 多様なワークショップと活動



あかちゃんのためのワークショップ



世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部



移動劇場 @ホーム公演

20周年ラインアップの受賞歴

*2018年2月時点 撮影：綿野晋司



『子午線の祀り』2017年7月 世田谷パブリックシアター
読売演劇大賞 最優秀作品賞
優秀女優賞（出演 若村麻由美）
毎日芸術賞 千田是也賞（演出 野村萬斎）



『チック』2017年8月 シアタートラム
読売演劇大賞 優秀演出家賞（演出 小山ゆうな）
優秀スタッフ賞（美術 栗家雅寛）
小田島雄志・翻訳戯曲賞（翻訳 小山ゆうな）



『管理人』2017年11月～12月 シアタートラム
紀伊國屋演劇賞 個人賞（出演 温水洋一）

世田谷区を中心とする地域の人々に向けて、演劇やダンスを観るだけではなく活用していくあり方に触れるワークショップやレクチャーなどを劇場内外で行います。誰もが等しく文化・芸術に親しみ、共有できる事業を展開することで、豊かな地域社会の形成を目指します。

コミュニティプログラム

- ▶ 演劇・ダンスワークショップ
- ▶ 子どものためのワークショップ
- 小学生・中高生のための演劇・ダンスワークショップ
- 世田谷パブリックシアター演劇部中学生の部
- ▶ 地域の物語ワークショップ

学校・施設との連携プログラム

- ▶ 学校のためのワークショップ
- かなりゴキゲンなワークショップ巡回団
- 先生のための演劇ワークショップ
- ▶ 世田谷区立中学校演劇部支援
- ▶ 区内施設連携プログラム

移動劇場

世田谷パブリックシアター@ホーム公演
世田谷区内の高齢者施設ほかで上演
『チャチャチャのチャリー
～歌って踊るよ ぼくたちは～』
脚本・演出＝ノゾエ征爾

研究育成プログラム

- ▶ 観客育成プログラム
- 舞台芸術のクリティック
- 世田谷パブリックシアター ダンス食堂
- ▶ 専門家育成プログラム
- 大学生インターン
- 進行役のための世田谷ワークショップラボ
- 演劇研究ゼミナール
- 舞台技術講座

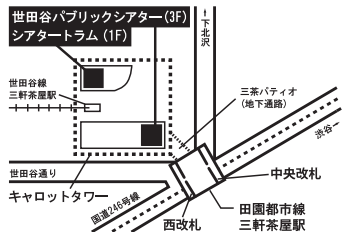
チケット購入のご案内

世田谷パブリックシアター
チケットセンター
キャロットタワー5階
Tel. 03-5432-1515
電話・窓口 10:00～19:00
年中無休(年末年始を除く)

世田谷パブリックシアター
オンラインチケット

PC・スマホ <http://setagaya-pt.jp/>
携帯 <http://setagaya-pt.jp/m/>

アクセス



三軒茶屋駅 直結
[東急田園都市線(渋谷より2駅・5分)・東急世田谷線]
〒154-0004
世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー内
Tel. 03-5432-1526
<http://setagaya-pt.jp/>

ご協賛・ご協力いただいている
企業・団体

Asahi アサヒグループホールディングス

東急電鉄

東邦ホールディングス株式会社

‘TORAY’ 東レ株式会社

TOYOTA

Bloomberg

Anne & Valentine リュネット アン・バレンタイン

スウェーデン大使館

BRITISH COUNCIL

2018
4
5
6
7

4月14日[土]～5月6日[日] KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

5月12日[土]～6月3日[日] シアタートラム

アイルランド人劇作家・脚本家の
2014年初演戯曲を白井晃により本邦初演！
KAAT神奈川芸術劇場×世田谷パブリックシアター
『バリーターク』

作＝エンダ・ウォルシュ 翻訳＝小宮山智津子
演出＝白井晃
出演＝草薅剛 松尾諭 小林勝也



4月29日[日]～5月6日[日] ダンス部門 世田谷パブリックシアター

世田谷区民と劇場が
ともに作りあげる夢のステージ

『フリーステージ2018』

出演＝世田谷区民団体 約60団体

音楽部門 シアタートラム

6月22日[金]～7月1日[日] 世田谷パブリックシアター

“舞台芸術＝パフォーマンスアーツ”としての
狂言を、特設能舞台で
――狂言劇場 特別版――
能『鷹姫』・
狂言『檜山節考』

出演＝野村万作 野村萬斎 /
大槻文蔵 片山九郎右衛門 /
観世喜正 大槻裕一 / ほか万作の会



せたがやこどもプロジェクト2018

ステージ編

8月4日[土]～8月5日[日] シアタートラム

毎夏恒例企画！
アーティストの個性あふれる絵本の読み聞かせ
子どもとおとなのための◎読み聞かせ
『お話の森』

出演＝ROLLY (8/4)、片桐仁 (8/5)



8月9日[木]～8月12日[日] 世田谷パブリックシアター

ラブコールに込めて新登場！
伝説のジャパンメイド☆ダンス

イデビアン・クルー
『排気口』

振付・演出＝井手茂太



8月18日[土]～8月19日[日] 世田谷パブリックシアター

日野皓正と中学生のジャズビッグバンドによる
大迫力のコンサート

『日野皓正 presents
“Jazz for Kids”』

出演＝日野皓正 Dream Jazz Band ほか



ワークショップ編

小学生／中学生／高校生のための
演劇・ダンスワークショップを各種開催



2019

1

2

3

10月10日[水] 世田谷パブリックシアター

毎回多彩なゲストを招き、
「表現の本質」に迫る芸術監督企画

『MANSAI◎解体新書
その貳拾八』

出演＝野村萬斎 ほか



10月20日[土]～10月21日[日] キャロットタワー周辺

三軒茶屋の街が、ちょっと風変わりな
「アートタウン」に変貌する2日間
世田谷アートタウン2018

『三茶de大道芸』

出演＝国内外のパフォーマー 約50組



10月19日[金]～10月21日[日] 世田谷パブリックシアター

境界を崩せ！欧州を代表するサーカスカンパニーの
難民問題をテーマにした心に響くスペクタクル

日本・スウェーデン外交関係樹立150周年
世田谷アートタウン2018関連企画

サーカス・シルクル
『LIMITS』



11月 世田谷パブリックシアター

将来を嘱望されたフットボール選手の人生が
戦争により一変する――
犠牲を容認する社会を鋭く描く反戦悲喜劇！

『The Silver Tassie 銀杯』

作＝ショーン・オケーシー 翻訳＝フジノサツコ
演出＝森新太郎



11月～12月 シアタートラム

若手団体の登竜門的存在！
劇場が期待を寄せる新しい才能を紹介

シアタートラム

ネクスト・ジェネレーション vol.11

12月 シアタートラム

今後上演予定の作品や実験的なリーディングを通して
舞台芸術の面白さに出会う

『戯曲リーディング』

1月19日[土] 世田谷パブリックシアター

選りすぐりの芸人が登場！
劇場で寄席のにぎわいを味わおう

『爆笑寄席●てやん亭』

2月 世田谷パブリックシアター

世界中の戯曲をいまの日本に立ち上げてきた
栗山民也が、新たな作品に挑む

『栗山民也 演出作品』



2月～3月 シアタートラム

三島戯曲のなかでも特に誉れ高い
家族の悲劇の物語が
精緻を極めた小川演出により新しく息吹く

『熱帯樹』

作＝三島由紀夫 演出＝小川絵梨子



3月 世田谷パブリックシアター

イギリス発！障害の有無を超えた身体表現と
詩的でユーモラスなステージ

ストップギャップ
ダンスカンパニー

『エノーマスルーム』



3月17日[日] シアタートラム

地域の多世代にわたる参加者が語らい、
観客とともに考える発表会

『地域の物語2019』

